

令和4年度第1回文化財保護審議会における指摘事項等に対する対応

全般

指摘事項	対応（案）
参考資料には、典拠を示してください。	「全国の道路元標の指定状況」（資料2 P5） （以下を追記） 各市町村等ホームページより参照

資料1 熊取村志関係資料

指摘事項	対応（案）
指定の名称について、「旧熊取村志関係資料」と「旧」が必要ではないか。	刊本が『熊取村志』であることから「旧」は付けない
関係資料3冊の表記の順番は、「熊取郷土調査基本編」が最初に来るべきではないか	成果物のメインである「熊取郷土調査基本編」を最初にし、「郷土調査資料」「熊取村志 原稿」の順とする。
『上方』に報告されているので、説明に加筆してはどうか。	『上方』には、直接「村志」については触れていないので、特に加筆はしない。
『決算書』も重要な指定関連資料として附指定してはどうか（その他関連資料があれば）。	『決算書』については、村志とは関係のないその他の項目についても掲載されているため、附とはしない。

資料2 旧熊取村道路元標

指摘事項	対応（案）
道路元標は位置に意味があり、かつ道路の付属物として土地に密着している性格から、指定区分は「史跡」とするべきではないか。	指定区分は「史跡」とする。
付近で交差する主要道路の名称を、明記すべき また当初から移動していないならその旨も記載すべき。	…熊取村役場前の府県道水間佐野線沿い（ <u>現国道170号</u> ）に設置され… （下線部分追記） （以下を追記） この場所は、府内各市町村の道路元標設置の場所を定めた昭和4年（1929）10月24日大阪府告示第621号等の記載と一致するため、現状は概ね当初の姿を留めるものと考えられる。
員数呼称は、「1個」ではなく「1基」とすべき。	「1基」とする。

<p>説明文の1行目、「柱」ではなく「標識」とすべき。</p>	<p>「道路の附属物」とする。</p>
<p>『泉南紀要』に大阪府庁から熊取までの距離が書かれているので、加筆してはどうか。</p>	<p>『泉南紀要』には大阪府庁から熊取までの距離が示されてるが、『泉南紀要』の発刊が大正6年3月であり、当該道路元標設置以前であることから、記載はしない。 ただし、『熊取郷土調査 基本編』に同様の記述があるので以下の文を追記する。 ちなみに旧熊取村の道路起点、すなわち本元標と大阪府庁の距離は当時 38.5km と計測されていた（『熊取郷土調査 基本編』の第二章）。</p>
<p>大阪府内の状況を末尾の結語の部分で述べてはどうか</p>	<p>（以下のように結語を修正）</p> <p>国土近代化の過程で全国の市町村に設置された道路元標は、交通網が広域・複雑化するとともにその役割を終え、その多くが撤去された。正確な現状は不明だが大阪府域では岸和田市、大阪市など二例ほどを数えるのみである。</p> <p>以上のように旧熊取村道路元標は、近代熊取町における地域社会の様相を示す貴重な文化遺産である。</p>

〈有形文化財 歴史資料〉

名 称	熊取村誌関係資料
	熊取郷土調査 基本編 1冊
	郷土調査資料 1冊
	熊取村志 原稿 1冊
所在地	熊取町五門西1丁目10番1号（熊取交流センターにて保管）
所有者	熊取町教育委員会
説 明	

大阪府域の自治体史誌は、明治36年（1903）刊行の『大阪府誌』を先駆けとして各地域で編纂がはじまり、日露戦争や第一次世界大戦を経て国策としての地域改良運動とも関連して多くの地域史誌刊行があった。泉南地域においては昭和7年（1932）頃から町村史誌編纂が更に盛んとなる。

この動きのなか熊取村では村誌の編纂刊行が計画され、熊取尋常高等小学校の南川幸助ら教員が中心となり史資料の調査・収集・編纂が行われた。事業は昭和7年から3箇年を要し、村の支出額は当時の決算書によると860円96銭である。

「昭和九年六月 熊取郷土調査 基本編 大阪府泉南郡熊取尋常高等小学校」と表紙にある冊子はその成果物であり、謄写版刷りB5判・321頁で昭和11年（1936）に刊行された。全10章に及ぶ内容の概略を順に示すと、郷土の歴史・自然・住民・交通及び通信・村の仕組み・官公署・公共団体・教育・産業・村の生活などきわめて幅広い。巻末には写真集として、熊取の風景・建物・産業・祭礼・学校・人物等、一部に泉州他地域も含む142点の当時の写真が付される。

この編纂事業に係る村域の詳細な調査の過程で、いま熊取町を代表する文化財である降井家書院や来迎寺本堂（いずれも重要文化財）、産業面では盛んであった繊維産業の実態等も調査され、今日の町の文化の拠点（煉瓦館は中林綿布五門工場の一部）や文化財の保存活用場として結実していることは注目される。

刊行に続いて成果物の一部を抜粋・編集した冊子『熊取村志』が作成され、町内有識者や周辺自治体等に配布された。この刊本は現在未発見であるが「昭和十年起 熊取村志 原稿」と題された綴りが現存し、内容から抜粋版作成に係る原稿と考えてよいものである。

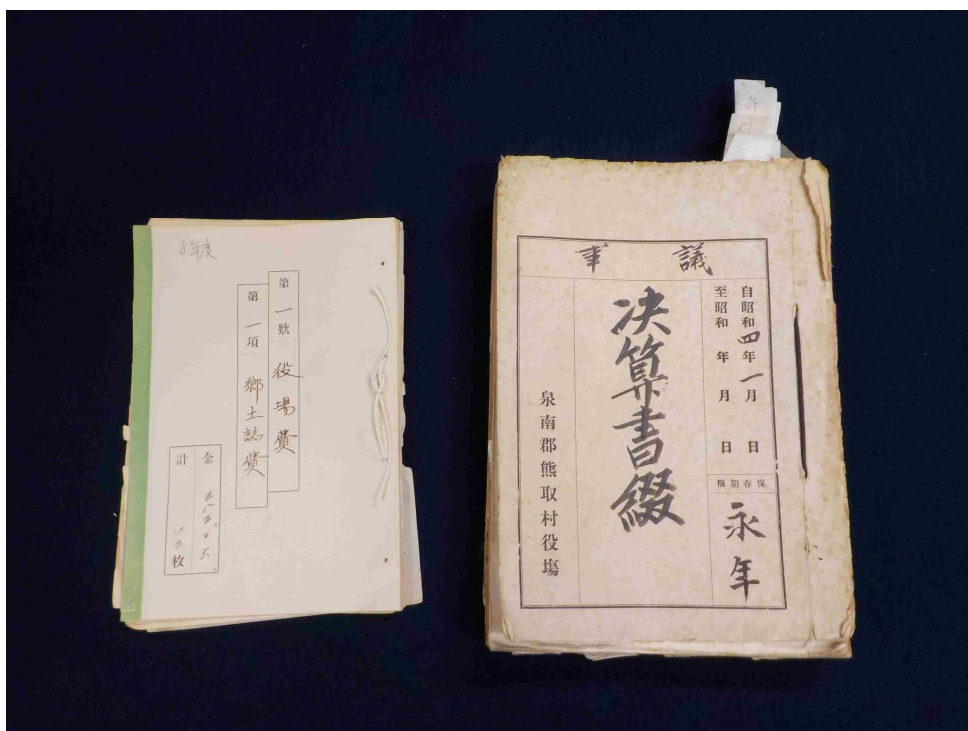
さらに町が保管する「郷土調査資料」と題する綴りは、上記の編纂過程で作成された稿本とみられる。これらの編纂の過程では、地域町村が緊密に協力し、成果の交換も行われていたことがうかがえる。

以上のように、熊取村誌編纂事業で得られた現存の成果物は、熊取の史資料地誌を収集記録し、産業や社会生活の実態をも示す貴重な遺産である。編纂の過程や様々な活用が行われたことを如実に示す計3点の資料を一括して保存し、町有形文化財（歴史資料）として今後の幅広い活用に備えるものである。



左から『熊取村志 原稿』、『熊取郷土調査 基本編』、『郷土調査資料』

(参考資料)



熊取村役場文書『決算書綴』

品名	数量	単価	金額	備考
紙	100	1000	10000	
墨	10	1000	10000	
筆	10	1000	10000	
硯	10	1000	10000	
...

『決算書綴』の郷土誌費の頁

熊取郷土調査 基本編 掲載写真一覧

仮通し No.	仮通し No.2	目次掲載名	本編掲載名	備考
001	1	日根対山の書	日根対山之書	
002	2	木積の釘無堂	釘無堂	
003	3	茅渟宮旧跡(上之郷)	茅渟宮旧跡	
004	4	お夏清十郎之墓	お夏清十郎之墓	
005	5	葛城山のブナ林	葛城山のブナ林	
006	6	堺妙国寺の蘇鉄	妙国寺の蘇鉄	
007	7	西葛城村秋山口に於て発見せし不整合地点	西葛城村秋山口にて発見せられし水成岩、火成岩の不整合地点	
008	8	雨山城の碑－朝代村外	雨山城碑	
009	9	愚白和尚の師事せる心越法師の書	愚白和尚の師事せし心越法師の書	
010	10	雨山城主橋本正高の使用せし茶釜	雨山城主橋本正高の使用せし茶釜	
011	11	本村に於ける煙草の栽培と玉葱小屋に玉葱貯蔵の状	煙草栽培と玉葱貯蔵小屋	
012	12	熊取校運動場の一角に在る忠魂碑	忠魂碑	
013	13	青年訓練所生徒会礼－夜間	青訓会礼	
014	14	全 教練	青訓教練	
015	15	大久保南方の高地より雨山を眺む	大久保南方より雨山を望む	
016	16	中家正門	中家正門	
017	17	中瑞雲齋の功に依り建設せられたる白峯宮	中瑞雲齋の功により建設せられたる白峯宮正門	
018	18	中瑞雲齋の功に依り建設せられたる白峯宮	全 拝殿	
019	19	大阪府鳥瞰写真	大阪府鳥瞰写真	
020	20	雨山より見たる熊取村全景【左】	雨山より眺めたる熊取村全景【左】	
021	21	雨山より見たる熊取村全景【右】	雨山より眺めたる熊取村全景【右】	
022	22	熊取校初代校長 石原幸太郎氏	熊取校初代校長石原幸太郎氏	
023	23	全 二代校長 久保太市氏	二代目校長 久保太市氏	
024	24	熊取小学校講堂内部	講堂	
025	25	北方丘陵より眺めたる熊取校全景	北方丘陵より眺めたる熊取校全景	
026	26	原翁の碑	原翁之碑	
027	27	本村功労者原勝藏翁	本村功労者原勝藏翁初代村長	碑文には「造」が使われている。「蔵」は誤りか？
028	28	前村長義本一氏	前村長 義本一氏	
029	29	原定吉翁	原定吉翁	
030	30	五百年前の村界石	「鷲がとまり」の畠にて、文化亥の年発掘せし分境石	
031	31	雨山龍王殿の柱	雨山龍王殿の柱	
032	32	大砲	【なし】	
033	33	【なし】	【なし】	【瑞雲齋の書】

熊取郷土調査 基本編 掲載写真一覧

仮通し No.	仮通し No.2	目次掲載名	本編掲載名	備考
034	34	中瑞雲斎肖像	中瑞雲斎肖像	
035		中瑞雲斎の書(三つ)	岡本黄石之書	【写真欠落か】
036	35	中瑞雲斎の書(三つ)	墨浦半江之書	
037	36	中瑞雲斎の書(三つ)	小小学人、奥野純は中瑞雲斎を訪ひし節、中氏に送りし書なり	
038	37	今川吉之の書	今川吉之書	
039	38	中左近家康公より賜りたる短刀	中辰之助氏所蔵の宗近の短刀	
040	39	孝明天皇に献上せし内紫の木		【此の木になりし内紫を孝明天皇に献上】
041	40	横井小楠を刺せし鎗先	横井小楠を刺せし志士その鎗の鋒先を中瑞雲斎に預けて逃ぐ	
042	41	【なし】	中瑞雲斎の絶筆	
043	42	中辰之助氏	中辰之助氏	
044	43	家康公筆蹟と唐より渡りし蜀光の錦	家康公筆蹟と唐より渡りし蜀光の錦	
045	44	中盛彬之肖像	中盛彬之象像	
046	45	犬追物 中盛彬の作りしもの	犬追物の実景	
047	46	犬追物 中盛彬の作りしもの	犬追物の附図 薩州古傳	州は原文は刀3つ
048	47	【なし】	中盛彬之碑文	
049	48	降井家書院	桃山時代の建築 南より見たる降井家書院全景	
050	49	降井家書院	降井家書院壁画 違棚、袋戸	
051	50	降井家書院	桃山時代の特徴あらはれたる上段の間の欄間 剣菱模様	仮通しNo.54と逆か
052	51	降井家書院	同書院のサヤの間と鏡戸	
053		降井家書院	狩野派の特徴あらはれた、床、違棚の堂々たる張り壁	【写真欠落か】 棚は原文では柵
054	52	降井家書院	サヤの間両側の鴨居にある竹の堅格子と雲模様の欄間	仮通しNo.51と逆か
055		降井家書院	袋戸は芦と萩と竹との交ぜ張り 引手は団扇の模様を嵌め実にくったものである	【写真欠落か】 嵌の山冠は原文では竹冠
056	53	降井家書院	北より見たる書院の全景	
057	54	降井家書院	中盛彬の写せしもの	
058	55	弘誓寺住持根来藤左エ門の子孫	弘誓寺住持	
059	56	阪上傳右エ門義駿の肖像	阪上傳右衛門義駿の肖像	
060	57	古劔をまつれる御社	古劔をまつれる御社	
061	58	阪上田村麻呂の佩刀	広江貢氏が阪上家に持ち来りし父祖傳來の古劔 阪上田村麻呂佩刀也	
062	59	原凌雲院の肖像	凌雲院肖像	
063	60	原樞叢院肖像 及一代記【1】	樞叢翁肖像	
064	61	原樞叢院肖像 及一代記【2】	樞叢院一代記	
065	62	原樞叢院肖像 及一代記【3】	翁が旧里に販りし時の家	

熊取郷土調査 基本編 掲載写真一覧

仮通し No.	仮通し No.2	目次掲載名	本編掲載名	備考
066	63	原樞叢院肖像 及一代記【4】	七、八才頃正永寺へ手習いに通ふ	
067	64	原樞叢院肖像 及一代記【5】	資本なきを以て綿種子買ひをはじむ	
068	65	原樞叢院肖像 及一代記【6】	十三才の時父に乞い商賣を以て家を 超さんとす	
069	66	原樞叢院肖像 及一代記【7】	十六才の時木綿商を始め暁に家出 て、大阪に行き木綿をうり夜家に販る を常とす 此の時始めて田地一段を買 ふ	
070	67	原樞叢院肖像 及一代記【8】	二十才の時易者曰く、士とならば万石 以上の大名とならんと、	
071	68	原樞叢院肖像 及一代記【9】	三十才の時の醸酒業を始め後数年を 経て搾油業をはじむ家益々富む	搾は原文では、手偏が無い
072	69	原樞叢院肖像 及一代記【10】	元日の朝粥の中に油をこぼせし女中 を叱らず、油を買(粥)への佳兆なりとて 油をかい、又富をいたす	
073	70	原樞叢院肖像 及一代記【11】	翁六十才の時財を州府に輸し民用に あつ、賞として五十人口を給ふ	
074	71	原樞叢院肖像 及一代記【12】	八十七才の時八十八才の祝をなす	
075	72	紫宸殿の畳表【1】	紫宸殿の畳表	
076	73	紫宸殿の畳表【2】	【なし】	【文化十癸酉三月上旬 京都御所紫宸殿御畳表 (裏書)】
077	74	山岡鉄舟の書(古行宮)	山岡鉄舟の書	
078	75	白河法皇行幸の御門	白河法皇御行幸の御門	
079		【なし】	電気の実験せし青雲主人の書	【写真欠落か】
080	76	天の火を取りたる巨松	天の火を取りたる巨松	
081	77	大森神社	大森神社之図	
082		【なし】	大森神社の初代神主 根来藤左エ門 氏	【写真欠落か】
083	78	大森神社二代目神主矢野越氏	第二代の神主矢野越氏	
084	79	秋祭地車大宮境内に入る	九月廿七日祭礼に大森神社境内に、 地車十三台集りたる壯観	
085	80	愚白和尚之木像	愚白之木像	
086	81	愚白の書 其他二【1】	能登の総持寺出火の際注ぎし焼石	
087	82	愚白の書 其他二【2】	愚白之書	
088	83	愚白の書 其他二【3】	支那曹洞宗嗣祖心越禪師支那へ販る 時愚白和尚長崎まで送り別るゝ時形見 に貰ひし瓦鉢とその由緒書	
089	84	成合寺	成合寺	
090	85	木庵の書	木庵の書←	
091	86	月舟の書	月舟の書↑	
092	87	月舟の書	月舟の書→	
093		月舟の書	月舟の書↓	【写真欠落か】
094	88	慈照寺の鐘と山門【1】	慈照寺の鐘	
095	89	慈照寺の鐘と山門【2】	慈照寺の山門	

熊取郷土調査 基本編 掲載写真一覧

仮通し No.	仮通し No.2	目次掲載名	本編掲載名	備考
096	90	七山病院全景【1】	七山病院全景【右】	
097	91	七山病院全景【1】	七山病院全景【左】	
098	92	病院本館正面	本館正面	
099	93	貫名菘翁先生の書	貫名菘翁先生の書	
100	94	建武石地藏を安置せる小堂及び石造【1】	地藏菩薩の石像を安置せる小堂	
101	95	建武石地藏を安置せる小堂及び石造【2】	石像	
102	96	黙庵の墓石	興正寺黙庵の墓石	
103	97	黙庵和尚の肖像	興正寺所蔵黙庵和尚の肖像彫刻	
104	98	来迎寺アミダ堂	雨山城の一閣を和田村に移し来迎寺の本堂を建つ	
105	99	アミダ如来像【1】	藤原時代の作と云はれる和田村来迎寺の阿弥陀佛	
106	100	アミダ如来像【2】	全上拡大せる写真	
107	101	応永三十二年の鬼瓦【1】	全上屋根を行基葺にせし応永三十二年の鬼瓦【上】	
108	102	応永三十二年の鬼瓦【2】	全上屋根を行基葺にせし応永三十二年の鬼瓦【下】	
109	103	【なし】	来迎寺阿弥陀佛の傳説	
110	104	行基瓦	【なし】	
111	105	鉄州和尚の墓石	鉄州和尚の墓石	
112	106	金剛法寺の鐘	金剛法寺の鐘	
113	107	まれくす堂と石地像【1】	まれくす堂	
114	108	まれくす堂と石地像【2】	まれくす堂内の石像	
115	109	雨山の遠望	成合村より雨山城の遠望	
116	110	雨山上の八大龍王を祭る鎮守	雨山の頂上	
117		【なし】	雨山城龍王殿の柱	【写真欠落か】
118	111	平福寺の鐘	北林山平福寺の鐘	
119	112	降井家墓碑	降井家墓碑	
120	113	天文石地藏及び供養碑【1】	(左)天文供養碑	
121	114	天文石地藏及び供養碑【2】	(右)天文十六年石地藏	
122	115	弘法大師の作なる弁財天	【なし】	
123	116	【なし】	【なし】	【郷土の自然】
124	117	青年団設立当時の五門支部員	青年団設立当時の五門支部員	
125	118	神無月花壇開墾記念撮影	神無月花壇開墾記念撮影	
126	119	前期男子部農業実習	前期男子部農業実習	
127	120	中公会	中公会	
128	121	公民女子部農業実習	公民女子部農業実習	

熊取郷土調査 基本編 掲載写真一覧

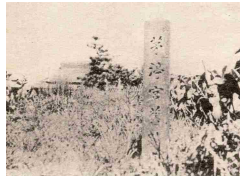
仮通し No.	仮通し No.2	目次掲載名	本編掲載名	備考
129	122	全 裁縫実習	公民女子裁縫実習	
130	123	全 割烹実習	中公後期割烹実習	
131	124	一斉作業 一	一斉作業 一	
132	125	一斉作業 二	一斉作業 二	
133	126	一斉作業 三	一斉作業 三	
134	127	全校職員児童朝会衆並に遥拝	全校職員児童朝会衆神宮並に宮城遥拝	
135	128	児童学習発表	講堂内に於ける児童学習発表	
136	129	本校正門	本校正門	
137	130	御眞影奉安殿	御眞影奉安殿	
138	131	義本酒店 醸造場	義本酒店 醸造場	
139	132	発酵場	全 発酵場	
140	133	搾取場	全 搾取場	
141	134	罎詰場	全 罎詰場	
142	135	中林工場 機場	中林工場 機場	
143	136	仕上場	全 仕上場	
144	137	チキリ場	全 チキリ場	
145	138	盆踊 一	【なし】	
146	139	盆踊 二	【なし】	
147	140	秋祭の地車	【なし】	
148	141	【なし】	【なし】	【鐘楼】
149		【なし】	鍬	【写真欠落か】
150	142	【なし】	【なし】	【大久保の中谷、籠谷に掘り出せし鋤先】



001 根対山之書



002 釘無堂



003 茅葺宮旧跡



004 お夏清十郎之墓



005 葛城山のブナ林



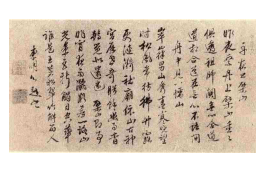
006 妙国寺の蘇鉄



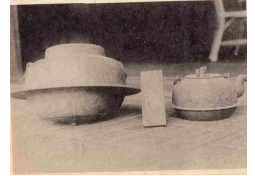
007 西葛城村秋山口にて発見せられし水成岩、火成岩の不整合地点



008 雨山城碑



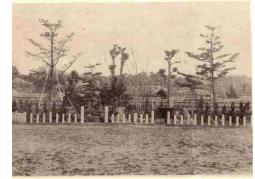
009 愚白和尚の師事せし心越法師の書



010 雨山城主橋本正高の使用せし茶釜



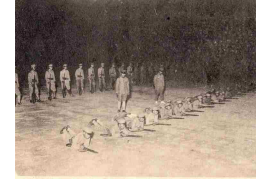
011 煙草栽培と玉葱貯蔵小屋



012 忠魂碑



013 青訓会礼



014 青訓教練



015 大久保南方より雨山を望む



016 中家正門



017 中瑞雲齋の功により建設せられたる白峯宮正門



018 全 拝殿



019 大阪府鳥瞰写真



020 雨山より眺めたる熊取村全景【左】



021 雨山より眺めたる熊取村全景【右】



022 熊取校初代校長石原幸太郎氏



023 二代目校長 久保太市氏



024 講堂



025 北方丘陵より眺めたる熊取校全景



026 原翁之碑



027 本村功勞者原勝藏翁 初代村長



028 前村長義本一氏



029 原定吉翁



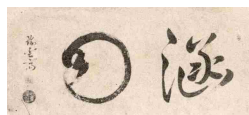
030 「鷺がとまり」の墓にて、文化亥の年発掘せし分境石



031 雨山龍王殿の柱



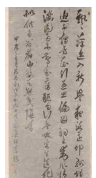
032【瑞雲齋が大和丹原村で試射した大砲】



033【瑞雲齋の書】



034 中瑞雲齋肖像



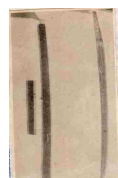
036 墨浦半江之書



037 小山人、奥野純は中瑞雲齋を訪ひし節、中氏に送りし書なり



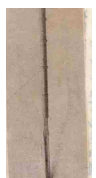
038 今川吉之書



039 中辰之助氏所藏の宗近の短刀



040【此の木になりし内紫を孝明天皇に献上】



041 横井小楠を刺せし志士その鎧の鋒先を中瑞雲齋に預けて逃ぐ



042中瑞雲斎の絶筆



043中 辰之助氏



044家康公筆蹟と唐より渡りし蜀光の錦



045中盛彬之肖像



046犬追物の実景



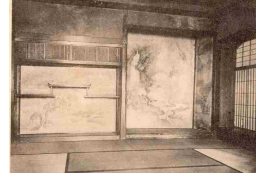
047犬追物の附図 薩州古傳



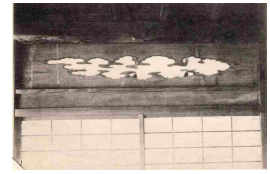
048中盛彬之碑文



049桃山時代の建築 南より見たる降井家書院全景



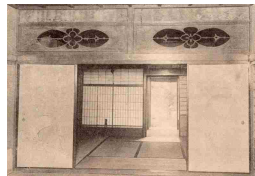
050降井家書院壁画 違棚、袋戸



051桃山時代の特徴あらはれたる上段の間の欄間 剣菱模様



052同書院のサヤの間と鏡戸



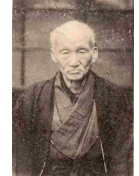
054サヤの両側の鴨居にある竹の堅格子と雲模様の欄間



056北より見たる書院の全景



057中盛彬の写せしもの



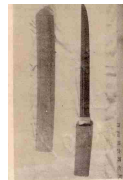
058弘誓寺住持



059阪上傅右衛門義駿の肖像



060古劔をまつれる御社



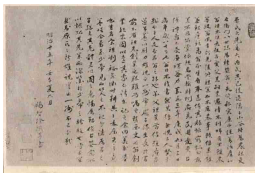
061広江貞氏が阪上家に持ち来りし父祖傳來の古劔 阪上田村麻呂佩刀也



062凌雲院肖像



063檀叢翁肖像



064檀叢院一代記



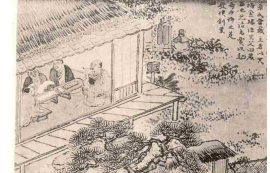
065翁が旧里に販りし家



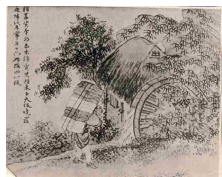
066七、八才頃正永寺へ手習いに通ふ



067資本なきを以て綿種子買ひをはじむ



068十三才の時父に乞ひ商賣を以て家を起さんとす



069十六才の時木綿商を始め暁に家出て、大阪に行き木綿をうり夜家に販るを常と



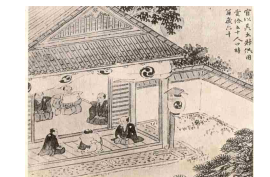
070二十才の時易者曰く、士とならば万石以上の大名とならんと



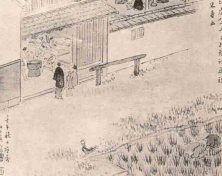
071三十才の時の醸酒業を始め後数年を経て搾油業をはじむ家益々富む



072元日の朝粥の中に油をこぼせし女中を叱らず、油を買(粥)への佳兆なりとて油を



073翁六十才の時財を州府に輸し民用にあつ、賞として五十人口を給ふ



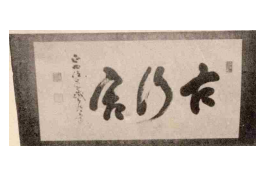
074八十七才の時八十八歳才の祝をなす



075紫宸殿の畳表



076(文化十癸酉三月上旬京都御所紫宸殿御畳表)(裏書)



077山岡鉄舟の書



078白河法皇御行幸の御門



080天の火を取りたる巨松



081大森神社之図



083第二代の神主矢野趙氏



084九月廿七日祭礼に大森神社境内に、地車十三台集りたる壯観



085愚白之木像



086能登の総持寺出火の際
注ぎし焼石



087愚白之書



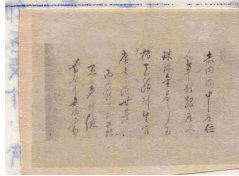
088支那曹洞嗣祖心越禪師
支那へ皈の時愚白和尚長
崎まで送り別るゝ時形見に



089成合寺



090木庵の書←



092月舟の書↑



093月舟の書→



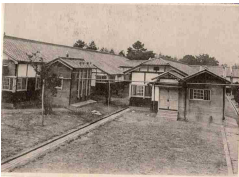
094慈照寺の鐘



095慈照寺の山門



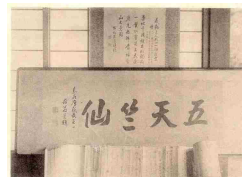
096七山病院全景【左】



097七山病院全景【右】



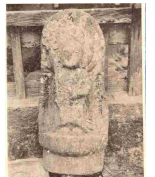
098本館正面



099貫名菘翁先生の書



100地藏菩薩の石像を安置
せる小堂



101石像



102興正寺黙庵の墓石



103興正寺所蔵黙庵和尚の
肖像彫刻



104雨山城の一閣を和田村
に移し来迎寺の本堂を建つ



105藤原時代の作と云はれ
る和田村来迎寺の阿弥陀
佛



106全上拡大せる写真



107全上屋根を行基葺にせ
し応永三十二年の鬼瓦【正
面】



108全上屋根を行基葺にせ
し応永三十二年の鬼瓦【横
面】



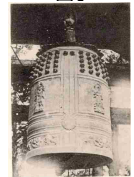
109来迎寺阿弥陀佛の傳説



110【行基瓦】



111鉄州和尚の墓石



112金剛法寺の鐘



113まれくす堂



114まれくす堂内の石像



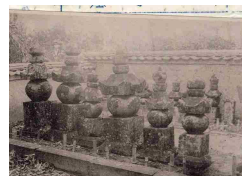
115成合村より雨山城の遠
望



116雨山の頂上



118北林山 平福寺の鐘



119降井家墓碑



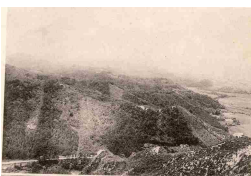
120(左)天文供養碑



121(右)天文十六年石地藏



122【弘法大師の作なる弁財
天】



123【郷土の自然】



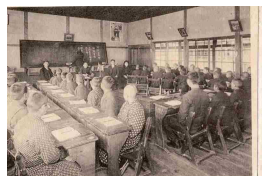
124青年団設立当時の五門
支部員



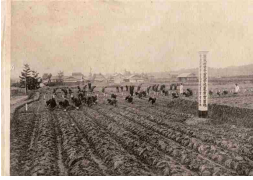
125神無月花壇開墾記念撮
影



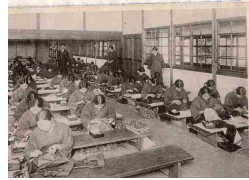
126前期男子部農業実習



127中公会



128公民女子部農業実習



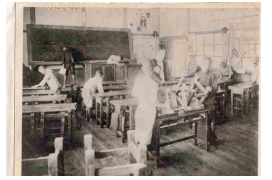
129公民女子裁縫実習



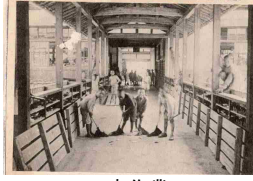
130中公後期割烹実習



131一斉作業 一



132一斉作業 二



133一斉作業 三



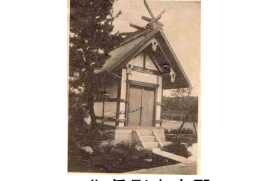
134全校職員児童朝会衆神宮並に宮城遥拝



135講堂内に於ける児童学習発表



136本校正門



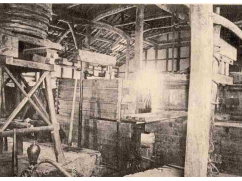
137御眞影奉安殿



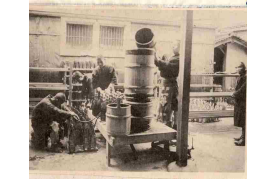
138義本酒店 醸造場



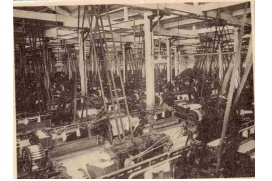
139全 発酵場



140全 搾取場



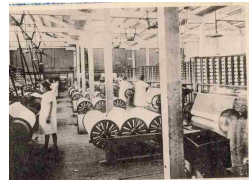
141全 繰詰場



142中林工場 機場



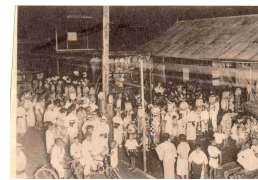
145全 仕上場



144全 チキリ場



145(盆踊一)



146(盆踊二)



147(秋祭の地車)



148(鐘楼)



150(大久保の中谷、籠谷に
掘り出せし鋤先)

資料1 熊取村誌関係資料指定調査 新旧対照表

今回	前回
<p>〈有形文化財 歴史資料〉</p> <p>名 称 熊取村誌関係資料</p> <p style="padding-left: 40px;">熊取郷土調査 基本編 1冊</p> <p style="padding-left: 40px;">郷土調査資料 1冊</p> <p style="padding-left: 40px;">熊取村志 原稿 1冊</p> <p>所 在 地 熊取町五門西1丁目10番1号(熊取交流センターにて保管)</p> <p>所 有 者 熊取町教育委員会</p> <p>説 明</p> <p>大阪府域の自治体史誌は、明治36年(1903)刊行の『大阪府誌』を先駆けとして各地域で編纂がはじまり、日露戦争や第一次世界大戦を経て国策としての地域改良運動とも関連して多くの地域史誌刊行があった。泉南地域においては昭和7年(1932)頃から町村史誌編纂が更に盛んとなる。</p> <p>この動きのなか熊取村では村誌の編纂刊行が計画され、熊取尋常高等小学校の南川幸助ら教員が中心となり史資料の調査・収集・編纂が行われた。事業は昭和7年から3箇年を要し、村の支出額は当時の決算書によると860円96銭である。</p> <p>「昭和九年六月 熊取郷土調査 基本編 大阪府泉南郡熊取尋常高等小学校」と表紙にある冊子はその成果物であり、謄写版刷りB5判・321頁で昭和11年(1936)に刊行された。全10章に及ぶ内容の概略を順に示すと、郷土の歴史・自然・住民・交通及び通信・村の仕組み・官公署・公共団体・教育・産業・村の生活などきわめて幅広い。巻末には写真集として、熊取の風景・建物・産業・祭礼・学校・人物等、一部に泉州他地域も含む142点の当時の写真が付される。</p>	<p>〈有形文化財 歴史資料〉</p> <p>名 称 熊取村誌関係資料</p> <p style="padding-left: 40px;">郷土調査資料 1冊</p> <p style="padding-left: 40px;">熊取郷土調査 基本編 1冊</p> <p style="padding-left: 40px;">熊取村志 原稿 1冊</p> <p>所 在 地 熊取町五門西1丁目(熊取交流センターにて保管)</p> <p>所 有 者 熊取町教育委員会</p> <p>説 明</p> <p>大阪府下の自治体史誌については、明治36年(1903)に刊行された『大阪府誌』を先駆けに、府内の自治体において郷土史の編纂がさかんに奨励され、第一次世界大戦後の民力涵養運動の影響もあって、大正末期にピークを迎えた。その後、昭和5年(1930)以降、泉南地方においても町村史誌がさかんに刊行されるようになり、熊取では南川幸助をはじめとする小学校教員が中心となって、昭和7年(1932)に熊取村志の編纂事業がはじまり、史料の調査・蒐集が行われた。完成までに3年を要したが、同9年(1934)6月、『熊取郷土調査 基本編』(謄写版刷りB5判・321頁)として発行者大阪府泉南郡熊取尋常高等小学校名で刊行された。</p> <p>その内容は、第一章から第十章で構成され、南川ら教員の郷土への熱意が読み取れるものになっており、第一章 郷土の歴史、第二章 郷土の自然、第三章 郷土の住民、第四章 交通、通信、第五章 村治一斑、第六章 郷土の官公署、第七章 郷土の公共団体、第八章 郷土の教育、第九章 郷土の産業、第十章 郷土民の生活、附録となっている。また熊取の風景や、建物、祭礼、学校、人物の写真等142点が掲載され、なかには堺や岸和田、泉佐野、貝塚等の写真数点が含まれており、当時の泉州地方の歴史を写真でうかがい知ることができる貴重な資料といえる。</p>

<p>この編纂事業に係る村域の詳細な調査の過程で、いま熊取町を代表する文化財である降井家書院や来迎寺本堂（いずれも重要文化財）、産業面では盛んであった繊維産業の実態等も調査され、今日の町の文化の拠点（煉瓦館は中林綿布五門工場の一部）や文化財の保存活用場として結実していることは注目される。</p> <p>刊行に続いて成果物の一部を抜粋・編集した冊子『熊取村志』が作成され、町内有識者や周辺自治体等に配布された。この刊本は現在未発見であるが「昭和十年起 熊取村志原稿」と題された綴りが現存し、内容から抜粋版作成に係る原稿と考えてよいものである。</p> <p>さらに町が保管する「郷土調査資料」と題する綴りは、上記の編纂過程で作成された稿本とみられる。これらの編纂の過程では、地域町村が緊密に協力し、成果の交換も行われていたことがうかがえる。</p> <p>以上のように、熊取村誌編纂事業で得られた現存の成果物は、熊取の史資料地誌を収集記録し、産業や社会生活の実態をも示す貴重な遺産である。編纂の過程や様々な活用が行われたことを如実に示す計3点の資料を一括して保存し、町有形文化財（歴史資料）として今後の幅広い活用に備えるものである。</p>	<p>この編纂事業は昭和7年度から9年度にかけて行われたが、「熊取村役場文書」の熊取村歳入歳出決算書（臨時費）によると、村志編纂にかかった費用として、合計860円96銭が支出されている。その内訳は昭和7年が199円40銭、同8年が原稿代・印刷代で383円6銭、同9年が写真代・製本代・半紙代で278円50銭である。村志の写真については、残っている請求書から大阪市内の業者によって写真撮影が行われたことがわかる。</p> <p>この史料の蒐集過程で、降井家書院が桃山時代（現在は江戸初期）の建築であることが判明し、来迎寺においては応永31年銘（1424）の鬼瓦が発見された。</p> <p>『熊取郷土調査 基本編』のほかの二冊については、『郷土調査資料』は編纂過程で作成された稿本と考えられ、また昭和10年（1935）3月作成の『熊取村志 原稿』は、内容が『熊取郷土調査 基本編』と酷似しており、南川が『熊取郷土調査 基本編』からさらに再編し、『熊取村志』の原稿となったものであると考えられる。なお『熊取村志』自体は現存していない。</p> <p>『熊取村志』は村会議員や村内の有力者、他の町村に配布したとされており、この取り組みが他の町村の参考になり、その一例が昭和10年に刊行された岸和田の『山直郷土誌』である。</p> <p>こうしたことから、熊取村志関係資料は昭和初期までの熊取の歴史をあらゆる項目を詳細に網羅していること、また周辺の自治体に与えた影響は大きいということもあわせて貴重な資料といえる。</p>
--	---

〈史跡〉

名 称 旧熊取村道路元標 1 基
 所 在 地 熊取町野田 1 丁目 2183 番 1
 所 有 者 熊取町
 説 明

道路元標は道路の起点・終点を示す道路の附属物である。明治初期に全国に設置された里程元標を承けて、大正 8 年（1919）公布の旧道路法に規定され、同法施行令に様式等が定められて各市町村に一個所の府県知事による指定の場所、多くは市町村庁舎付近や同中心部の主要道路交差点等に設置された。昭和 27 年（1952）公布の現行道路法にも規定は残るものの現在では設置の義務及び必要性はなく、設置されない。

このたび町史跡として指定する道路元標は、当時の熊取村役場前の府道水間佐野線（現国道 170 号）に北面して設置されたもので、幅奥行共に 25 cm、高さ 58 cm（底部はコンクリートの台座に埋没）の角柱状で頂部は弧を描く叩き仕上げの花崗岩製である。正面に「熊取村道路元標」、裏面に「昭和四年十一月建之」と刻字される。この場所は、府内各市町村の道路元標設置の場所を定めた昭和 4 年（1929）10 月 24 日大阪府告示第 621 号等の記載と一致するため、現状は概ね当初の姿を留めるものと考えられる。

ちなみに旧熊取村の道路起点、すなわち本元標と大阪府庁の距離は当時 38.5km と計測されていた（『熊取郷土調査 基本編』第二章）。

なお旧熊取村役場は、村成立当初の明治 22 年（1889）に大字久保の大森神社社務所におかれたが、明治 44 年（1911）により産業・交通の中心に近いこの地に移転、昭和 26 年（1951）の町制施行を経て、昭和 38 年（1963）野田の現庁舎に移るまで機能した。



現況写真

国土近代化の過程で全国の市町村に設置された道路元標は、交通網が広域・複雑化するとともにその役割を終え、その多くが撤去された。正確な現状は不明だが大阪府域では岸和田市、大阪市など二例ほどを数えるのみである。

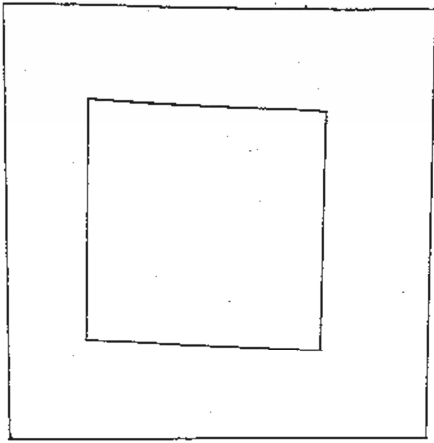
以上のように旧熊取村道路元標は、近代熊取町における地域社会の様相を示す貴重な文化遺産である。



拓本

S=1/4

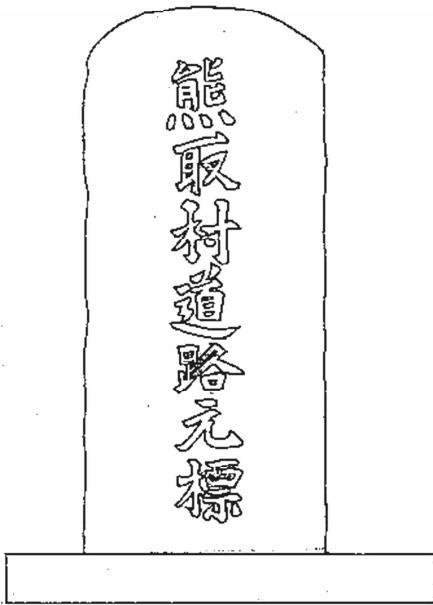
熊取村道路元標実測図



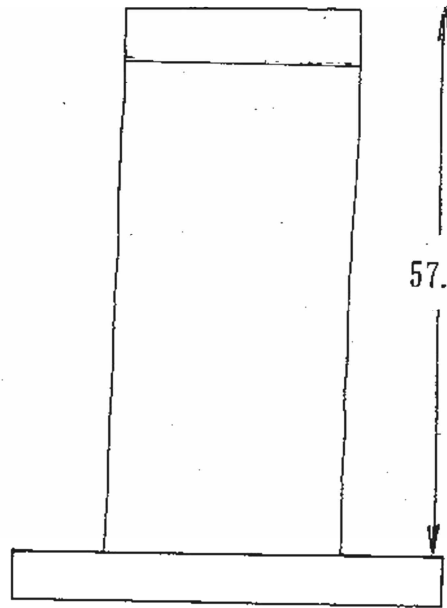
上面

S=1/8

25cm

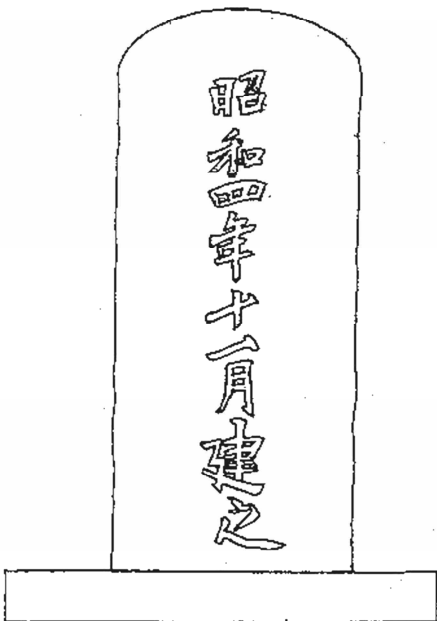


北面

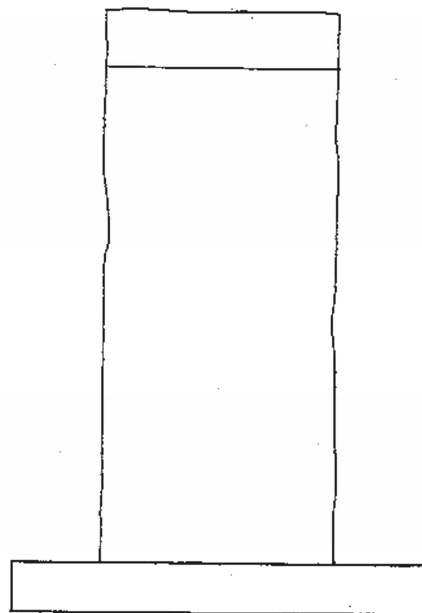


東面

土台 高さ 5cm



南面



西面

(参考資料)

熊取町周辺の道路元標の所在状況

	名称	所在地	備考
1	岸和田市道路元標	大阪府岸和田市本町6丁目 (岸和田市役所別館北角 本町郵便局前)	紀年刻字なし
2	橋本町道路元標	和歌山県橋本市橋本2丁目	紀年刻字なし



岸和田市道路元標



橋本町道路元標



昭和20年代の写真（左下に道路元標の上部が映る）

全国の道路元標の指定状況

指定区分	名称	所在地	材質	設置年代	指定年月日	文化財の種類	備考
市	大谷村道路元標	栃木県小山市	花崗岩	不明	H11	歴史資料	
町	黒磯町道路元標	栃木県那須塩原市	花崗岩	不明	H27	史跡	
町	上三川村道路元標	栃木県河内郡上三川(かみのかわ)町	花崗岩	不明	H20		
町	中之條町道路元標	群馬県吾妻郡中之條町	花崗岩	不明	S63	史跡	
町	川角村道路元標	埼玉県入間郡毛呂山(もろやま)町	花崗岩	不明	H23		
町	金澤村道路元標	埼玉県秩父郡皆野町	花崗岩	大正～昭和初期か	H26	史跡	
町	三澤村道路元標	埼玉県秩父郡皆野町	花崗岩	大正～昭和初期か	H26	史跡	
町	国神村道路元標	埼玉県秩父郡皆野町	花崗岩	大正～昭和初期か	H26	史跡	
市	中丸村道路元標	埼玉県北本市	花崗岩	大正～昭和初期か	H12	歴史資料	村名が道路元標の下で珍しい「道路元標 中丸村」
市	石戸村道路元標	埼玉県北本市	花崗岩	大正～昭和初期か	H12	歴史資料	
国	東京市道路元標	東京都中央区	金属の柱状	明治44年	H11	建造物	(重文) 日本橋の附指定
市	南郷村道路元標	千葉県山武市富口	花崗岩	大正～昭和初期か	S60		
町	奴奈川村道路元標	新潟県十日市町	花崗岩	大正8年	H4		
市	鎧郷村道路元標	新潟市	花崗岩	大正11年以降	H16		
市	曾根村道路元標	新潟市	花崗岩	大正11年以降	H16		
市	升潟村道路元標	新潟市	花崗岩	大正11年以降	H16		
市	大川谷村道路元標	新潟県村上市	花崗岩	大正時代	H26		
市	黒川俣村道路元標	新潟県村上市	花崗岩	大正時代	H26		
市	高根村道路元標	新潟県村上市	花崗岩	大正時代	H26		
市	三面村道路元標	新潟県村上市	花崗岩	大正時代	H26		
市	平林村道路元標	新潟県村上市	花崗岩	大正時代	H26		
市	橋本町道路元標	和歌山県橋本市	花崗岩	不明	H9		
村	読谷村道路元標	沖縄県読谷村	花崗岩	不明	H23		

資料2 旧熊取村道路元標指定調書 新旧対照表

今回	前回
<p>〈史跡〉</p> <p>名 称 旧熊取村道路元標 <u>1基</u></p> <p>所 在 地 <u>熊取町野田1丁目2183番1</u></p> <p>所 有 者 熊取町</p> <p>説 明</p> <p>道路元標は道路の起点・終点を示す道路の附属物である。明治初期に全国に設置された里程元標を承けて、大正8年(1919)公布の旧道路法に規定され、同法施行令に様式等が定められて各市町村に一個所の府県知事による指定の場所、多くは市町村庁舎付近や同中心部の主要道路交差点等に設置された。昭和27年(1952)公布の現行道路法にも規定は残るものの現在では設置の義務及び必要性はなく、設置されない。</p> <p>このたび町史跡として指定する道路元標は、当時の熊取村役場前の府道水間佐野線(現国道170号)に北面して設置されたもので、幅奥行共に25cm、高さ58cm(底部はコンクリートの台座に埋没)の角柱状で頂部は弧を描く叩き仕上げの花崗岩製である。正面に「熊取村道路元標」、裏面に「昭和四年十一月建之」と刻字される。この場所は、府内各市町村の道路元標設置の場所を定めた昭和4年(1929)10月24日大阪府告示第621号等の記載と一致するため、現状は概ね当初の姿を留めるものと考えられる。</p> <p>ちなみに旧熊取村の道路起点、すなわち本元標と大阪府庁の距離は当時38.5kmと計測されていた(『熊取郷土調査 基本編』第二章)。</p> <p>なお旧熊取村役場は、村成立当初の明治22年(1889)に大字久保の大森神社社務所におかれたが、明治44年(1911)により産業・交通の中心に近いこの地に移転、昭和26年(1951)の町制施行を経て、昭和38年(1963)野田の現庁舎に移るまで機能した。</p>	<p>〈有形文化財 歴史資料〉</p> <p>名 称 旧熊取村道路元標 <u>1個</u></p> <p>所 在 地 <u>熊取町野田1丁目</u></p> <p>所 有 者 熊取町</p> <p>説 明</p> <p>道路元標は道路の起点・終点を示す柱で道路の附属物である。大正8年(1919)に旧道路法が制定され、同法施行令で道路元標の設置が法制化、各市町村に1個を設置することとされた。設置場所は府県知事が指定することとされており、ほとんどは市町村役場の前か市町村の中心となる主要な道路の交差点に設置されたようである。</p> <p>熊取の場合、昭和4年に熊取村役場前に設置され、幅25cm、奥行25cm、高さ58cm、頂部が弧を描くように丸く削られている。花崗岩製で正面に「熊取村道路元標」、裏面に「昭和四年十一月建之」と刻字されている。</p> <p>旧熊取村役場跡地前に現存しており、大阪府内には、岸和田市1個を数えるのみで、昭和27年の新道路法により設置義務や規定もなくなり、道路の起点・終点は道路元標と無関係となったことから、撤去されていった。</p> <p>なお熊取村役場は、もとは大宮にある大森神社の社務所を役場として使用していたが、明治44年(1911)に村会で役場新築案が可決、野田に新しい役場が建設されることとなった。昭和26年(1951)11月3日、町制施行により「熊取町」が誕生し、その後人口が増加したことに伴い、昭和38年(1963)4月に新庁舎建設のはこびとなり、12月に現在の場所(野田一丁目1番1号)に移転した。</p>

国土近代化の過程で全国の市町村に設置された道路元標は、交通網が広域・複雑化するとともにその役割を終え、その多くが撤去された。正確な現状は不明だが大阪府域では岸和田市、大阪市など二例ほどを数えるのみである。

以上のように旧熊取村道路元標は、近代熊取町における地域社会の様相を示す貴重な文化遺産である。

【その他】

(写真キャプション)

現況写真 (バックをぼかす)

(図版等のキャプション名・順番)

現況写真、拓本、実測図、熊取町周辺の道路元標の状況、昭和 20 年代の写真

道路元標が建てられた場所は、当時の熊取の中心を示すものであることから、熊取の歴史を知る上で貴重な資料といえる。

【その他】

(写真キャプション)

現状写真

(図版等のキャプション名・順番)

現状写真、昭和 20 年代の写真、拓本、実測図、熊取町周辺の道路元標の状況